

# 感 染 予 防 医 学

## Biodefence Medicine

教授 舟田 久 Hisashi Funada  
助教授 安岡 彰 Akira Yasuoka  
助手 板澤 寿子 Toshiko Itazawa

### ◆ 著 書

- 1) 舟田 久:敗血症。「今日の治療指針2003」45:161-162, 医学書院, 東京, 2003.
- 2) 舟田 久:血流感染症。「感染症診断に必要な微生物検査」菅野治重, 川上小夜子監修, 85-86, ライフ・サイエンス, 東京, 2003.
- 3) 舟田 久:感染の生物学(感染免疫)。「内科学第8版」杉本恒明, 小俣政男, 水野美邦総編集, 19-23, 朝倉書店, 東京, 2003.
- 4) 安岡 彰:ニューモシスチス・カリニ肺炎。「外来診療のすべて」高久史磨総編集, 972, メジカルビュー社, 東京, 2003.
- 5) 安岡 彰:赤痢アメーバ症「外来診療のすべて」高久史磨総編集, 974, メジカルビュー社, 東京, 2003.
- 6) 安岡 彰:ニューモシスチス・カリニ感染症。「内科学」杉本恒明, 小俣政男, 水野美邦総編集, 436-437, 朝倉書店, 東京, 2003.
- 7) 安岡 彰:クリプトスポリジウム症・サイクロスポーラ症。「内科学」杉本恒明, 小俣政男, 水野美邦総編集, 449-450, 朝倉書店, 東京, 2003.
- 8) 安岡 彰:ランブル鞭毛虫症。「内科学」杉本恒明, 小俣政男, 水野美邦総編集, 451, 朝倉書店, 東京, 2003.

### ◆ 原 著

- 1) Tsuchiya K, Matsuoka-Aizawa S, Yasuoka A, Kikuchi Y, Tachikawa N, Genka I, Teruya K, Kimura S, and Oka S.: Primary nelfinavir (NFV)-associated resistance mutations during a follow-up period of 108 weeks in protease inhibitor naive patients treated with NFV-containing regimens in an HIV clinic cohort. *J Clin Virol.* 272:52-262, 2003.
- 2) 土屋亮人, 平林義弘, 今井和成, 菊池 嘉, 立川夏夫, 源河いくみ, 照屋勝治, 安岡 彰, 岡慎一, 木村 哲: Saquinavir (SQV) soft-gel capsule (SGC)+ritonavir (RTV) と SQV hard-gel+RTV および SQV-SGC 単独投与時の薬物動態の比較. *感染症学雑誌*, 77:436-442, 2003.

### ◆ 症例報告

- 1) Yamamoto Y, Teruya K, Katano H, Niino H, Yasuoka A, Kimura S and Oka S.: Rapidly progressive human herpesvirus 8-associated solid anaplastic lymphoma in a patient with AIDS-associated Kaposi sarcoma. *Leukemia & Lymphoma*, 44:1631-1633, 2003.
- 2) 石崎有澄美, 菊池 嘉, 畑生俊光, 狩野繁之, 安岡 彰, 岡 慎一: わが国で初めて Artemether-Lumefantrine 合剤で治療した輸入熱帯熱マラリアの1例. *感染症学雑誌*, 77:34-37, 2003.

### ◆ 総 説

- 1) 舟田 久:敗血症. *病理と臨床* 21 (臨時増刊号):57-66, 2003.
- 2) 舟田 久:敗血症. *Infection & Technology (I.T)* 9:2-7, 2003.
- 3) 舟田 久: Febrile neutropenia (好中球減少に伴う発熱). *化学療法の領域*, 19(6):995-961, 2003.
- 4) 安岡 彰: キャンディン系抗真菌薬. *化学療法の領域*, 1939-46, 2003.
- 5) 安岡 彰: 今後の新薬とそれらを用いた新しい HAART 療法への展望. *Progress in Medicine*, 23:2286-2290, 2003.
- 6) 安岡 彰: 肺炎をめぐる 7. 特殊な肺炎. *呼吸器ケア*, 1:478-483, 2003.
- 7) 安岡 彰, 境美代子: わが病院の感染対策. 富山医科薬科大学附属病院での取り組み. *化学療法の領域*, 19:1977-1980, 2003.
- 8) 安岡 彰: アスペルギルス症の診断と治療の進歩. *内科*, 92:891-894, 2003.
- 9) 安岡 彰: ニューモシスチスカリニ肺炎. *M.P 実践抗生物質・抗菌薬療法ガイド*, 20:249-251, 2003.
- 10) 安岡 彰: キャンディン系抗真菌薬. *治療学*, 37:280-282, 2003.
- 11) 安岡 彰: 日常臨床で陥りやすい落とし穴. 青少年の間質性肺炎を見たときにすぐにステロイドを投与してはいけない. *治療*, 85:1214-1216, 2003.
- 12) 安岡 彰: 真菌症の予防. *臨床医*, 29:194-198, 2003.
- 13) 安岡 彰: HIV の針刺し事故にどう対処するか. *現代医療*, 35:1409-1414, 2003.

### ◆ 学会報告

- 1) 安岡 彰: 院内感染症対策における検査技師に期待すること. 第22回日本臨床検査医学会. 東海・北陸支部例会, 2003, 8. 富山.
- 2) 安岡 彰: SARS に学ぶ院内感染対策. 第4回

- 富山医科薬科大学看護学会集会, 2003. 10, 富山.
- 3) 安岡 彰: SARSに学ぶ院内感染対策. 日本結核病学会・日本呼吸器学会・呼吸器内視鏡学会・サルコイドーシス学会合同北陸地方会, 2003. 11, 富山.
  - 4) 菊池 嘉, 上田晃弘, 吉田邦仁子, 矢崎博久, 田沼順子, 鈴木康弘, 本田美和子, 湯永博之, 照屋勝治, 源河いくみ, 立川夏夫, 安岡 彰, 岡慎一, 木村 哲: HIV感染者におけるGBウイルスC(GBV-C)血症. 第77回日本感染症学会総会, 2003. 4, 福岡.
  - 5) 安岡 彰: シンポジウム2 HIV診療の現状と展望 針刺し事故にどう対応するか. 第77回日本感染症学会総会, 2003. 4, 福岡.
  - 6) 源河いくみ, 上田晃弘, 吉田邦仁子, 鈴木康弘, 田沼順子, 矢崎博久, 本田美和子, 湯永博之, 照屋勝治, 立川夏夫, 安岡 彰, 菊池 嘉, 岡慎一, 木村 哲: HAART時代のカポジ肉腫症例の検討. 第17回日本エイズ学会総会, 2003. 11, 神戸.
  - 7) 武部 豊, 安岡 彰, 岡 慎一: HIV-2感染症例についての検討. 第77回日本感染症学会総会. 2003. 4, 福岡.
  - 8) 田沼順子, 上田晃弘, 吉田邦仁子, 矢崎博久, 本田美和子, 湯永博之, 照屋勝治, 源河いくみ, 立川夏夫, 菊池 嘉, 岡 慎一, 木村 哲, 安岡 彰: 当院における急性HIV感染者に対するStructured Treatment Interruptions. 第77回日本感染症学会総会. 2003. 4 福岡.
  - 9) 照屋勝治, 上田晃弘, 吉田邦仁子, 田沼順子, 矢崎博久, 鈴木康弘, 本田美和子, 湯永博之, 源河いくみ, 立川夏夫, 菊池 嘉, 安岡 彰, 岡慎一, 木村 哲: カリニ肺炎治療後のHAART開始時期と免疫再構築症候群の発生頻度に関する検討. 第17回日本エイズ学会総会. 2003. 11, 神戸.
  - 10) 立川夏夫, 菊池 嘉, 照屋勝治, 源河いくみ, 湯永博之, 本田美和子, 鈴木康弘, 矢崎博久, 田沼順子, 上田晃弘, 吉田邦仁子, 安岡 彰, 岡慎一, 木村 哲: 新規に診断されたHIV/AIDS患者の予後 1999年から2002年の検討. 第17回日本エイズ学会総会, 2003. 11, 神戸.
  - 11) 上田幹夫, 河村洋一, 舟田 久, 安岡 彰, 吉田 喬, 和野雅治, 朝倉策策, 上田孝典, 今井由三代, 戸来依子, 宮田 勝, 山下郁江, 山田三枝子, 正兼亜季, 辻 典子, 青木 眞: 北陸地方におけるエイズ診療体制の構築について. 第17回日本エイズ学会総会, 2003. 11, 2003.
  - 12) 上田晃弘, 吉田邦仁子, 田沼順子, 矢崎博久, 鈴木康弘, 本田美和子, 湯永博之, 照屋勝治, 源河いくみ, 立川夏夫, 菊池 嘉, 安岡 彰, 岡慎一, 木村 哲: 当院におけるAIDS関連悪性リンパ腫の検討. 第17回日本エイズ学会総会, 2003. 11, 神戸.
  - 13) 矢崎博久, 上田晃弘, 吉田邦仁子, 田沼順子, 鈴木康弘, 本田美和子, 湯永博之, 源河いくみ, 照屋勝治, 立川夏夫, 菊池 嘉, 安岡 彰, 岡慎一, 木村 哲: 当センターにおける抗HIV薬の変遷について. 第17回日本エイズ学会総会, 2003. 11, 神戸.
  - 14) 吉田邦仁子, 上田晃弘, 鈴木康弘, 田沼順子, 矢崎博久, 本田美和子, 湯永博之, 源河いくみ, 照屋勝治, 立川夏夫, 菊池 嘉, 安岡 彰, 岡慎一, 木村 哲: 当院におけるデング熱症例の検討第77回日本感染症学会総会, 齋藤 厚, 福岡, 2003.
  - 15) 田沼順子, 上田晃弘, 吉田邦仁子, 鈴木康弘, 矢崎博久, 本田美和子, 湯永博之, 源河いくみ, 照屋勝治, 立川夏夫, 菊池 嘉, 岡 慎一, 木村 哲, 安岡 彰: 当院における急性HIV感染者に対するStructured Treatment Interruptions. 第17回日本エイズ学会総会, 2003. 11, 神戸.
- ◆ その他
- 1) 安岡 彰, 森 慎一郎: 免疫不全と呼吸器感染症. Infection File, 河野 茂, 後藤 元ほか監修, 12:3-8, 協和企画, 東京, 2003.
  - 2) 安岡 彰: 針刺し事故対策のための感染症検査の対象・時期. 日本医事新報, 4109:94-95, 2003.
  - 3) 石崎有澄美, 安岡 彰, 渡辺珠代, 鳴河宗聡, 多賀由紀子, 森田未香, 岩木有香, 吉田郁子, 舟田 久: 2002年度の富山医薬大におけるPRSPの検出状況. 第1回北陸感染症研究会, 2003. 2, 金沢.
  - 4) 安岡 彰: 講演 AIDS症例における注意すべき日和見感染症や合併症. 平成14年度北陸HIV臨床談話会, 2003. 6, 金沢, 2003.
  - 5) 安岡 彰: 講演 SARSと院内感染. 平成15年度富山県臨床衛生検査技師会生涯教育研修会, 2003. 7, 富山.
  - 6) 安岡 彰: 講演 インフルエンザとSARS. 高岡医療圏薬剤師会研修会, 2003. 11, 高岡.
  - 7) 安岡 彰: 講演 インフルエンザとSARS. 新湊市・射水郡医師会合同研修会, 2003. 11, 小杉町.
  - 8) 安岡 彰: 講演 インフルエンザとSARS. 富

山県保険医会臨床懇話会, 2003. 11, 富山.

- 9) 安岡 彰: 講演 感染症予防の基礎知識. 平成15年度富山県看護協会感染症対策研修会, 2003. 11, 富山.
- 10) 安岡 彰: 講演 Immunocompromised hostにおける呼吸器感染症の診断と治療. 第5回北陸呼吸器感染症研究会, 2003. 6, 金沢.
- 11) 安岡 彰: 講演 SARSについて. 富山市周辺耳鼻科医会, 2003. 9, 富山.
- 12) 安岡 彰: 講演 国際感染症と国際協力. 第18回長崎臨床感染症研究会, 2003. 5, 長崎.
- 13) 安岡 彰: 講演 耐性菌を考えた抗菌剤の使い方. 西砺波郡市医師会学術講演会, 2003. 5, 小矢部.
- 14) 安岡 彰: 講演 日和見感染症の治療 - 実例に見る対応 -. 平成15年度東海ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会, 2003. 12, 名古屋.

## 免 疫 学

### Immunology

教 授	村口 篤	Atsushi Muraguchi
助 教 授	岸 裕幸	Hiroyuki Kishi
助 手	近藤佐千子	Sachiko Kondo
助手(前)	金 哲雄	Zhe-Xiong Jin
助手(前)	韋 星呈	Xing-Cheng Wei
技 官	廣田 早苗	Sanae Hirota

#### ◆ 原 著

- 1) Kawakami T., Nagata T., Muraguchi A., and Nishimura T.: Proteomic approach to apoptotic thymus maturation. *J. Chromatography B.*, 787:223-229, 2003.
- 2) Liu Q.-L., Kishi H., Ohtsuka K., and Muraguchi A.: Heat-shock protein 70 binds caspase-activated DNase and enhances its activity in TCR-stimulated T cells. *Blood*, 102:1788-1796, 2003.
- 3) Kondo S., Kishi H., Tokimitsu Y., and Muraguchi A.: Possible involvement of glial cell line-derived neurotrophic factor(GDNF) and its receptor, GFR  $\alpha$  1, in survival and maturation of thymocytes. *Eur. J. Immunol.*, 33:2233-2240, 2003.
- 4) Tanaka K., Yamamoto T., Aikawa Y., Kizawa K., Muramoto K., Matsuno H., and Muraguchi A.: Inhibitory effects of an anti-rheumatic agent T-614 on immunoglobulin production by cultured B cells and rheumatoid synovial tissues engrafted into SCID mice. *Rheumatology*, 42:1365-1371, 2003.

#### ◆ 総 説

- 1) 民谷栄一, 山村昌平, 森田資隆, 鈴木正康, 岸裕幸, 村口 篤: バイオセンサーチップと抗体エンジニアリング. *Bio Industry*, 20:60-67, 2003.

#### ◆ 学会報告

- 1) 金 哲雄, 杉山英二, 岸 裕幸, 篠田晃一郎, 多喜博文, 小林 正, 村口 篤: AAVベクターを用いたIL-4, IL-10の多サイトカイン遺伝子導入による関節リウマチの治療の試み. 第47回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2003, 4, 東京.
- 2) 道寛純一, 韋 星呈, 岸 裕幸, 村口 篤: マウスRAG-2近位エンハンサーエレメントの性状と転写制御因子. *Kyoto T Cell Conference (KTCC)*, 2003, 6, 京都.